

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

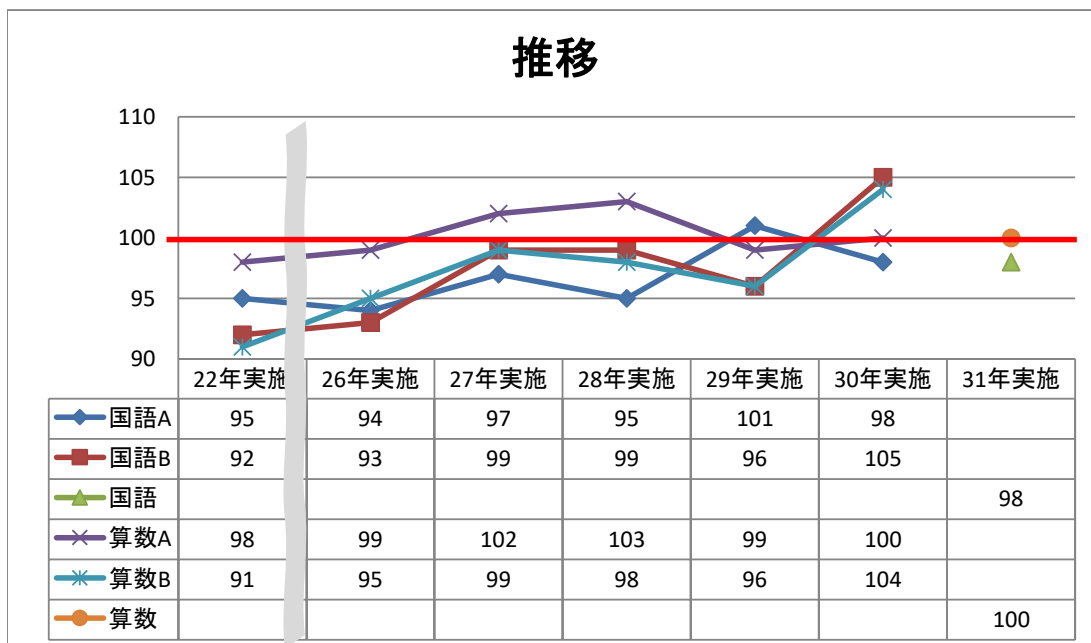
全国調査の標準化得点 国語98 算数98

3.指標に向けての取組

- 朝のチャレンジタイムや学期末の漢字検定・算数検定実施
- 基礎・基本の確実な習得を目指し、複数体制による算数指導を実施し、テスト後は、「補充の時間」を設定する。
- 家庭学習時間「10分×学年数+10分」を徹底し、提出率90%以上を目指す。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国 語	算 数
本校	98	100
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

□朝のチャレンジタイムでは、複数体制で算数の既習問題に取り組ませ、学習したことを確実に習得させたこと。また、学期末の検定で全員が認定証をもらえるよう、意欲をもたせながら取り組ませたことが本年度の目標達成につながった。

□算数科において、単元テストの結果を踏まえた補充学習を実施し、フォローアップシートやテストなどを活用してきたことで、指標を上回る結果となった。しかし、課題のある学年において、複数体制による算数指導を実施したものの、全校での組織的な取組になっていなかった。

□家庭学習の取組では、提出率90%を目指すとともに、内容を工夫し、課題のある「読み取り」の問題を中心におこなった。さらに、朝、解説を含めた答え合わせを継続して行うことで、提出率は90%達成し、国語は、嘉麻市標準化得点に達する結果につながった。

6.各学校における今後の取組

□基礎基本の確実な定着のための取組
（朝のチャレンジタイム、学期末の算数・漢字検定）《継続》

□どの学年においても、算数においては、単元テストの結果を踏まえた複数体制での習熟度別授業と総括的診断テストの実施 《新規》

□思考活動を重視した授業づくりを推進し、カリキュラムマネジメントの充実を図る。《新規》

□週末課題の自己選択による個別化 《新規》

□家庭学習時間「10分×学年数+10分」の徹底 《新規》

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができるよう、指導と評価の一体化を図る即時評価の取組を奨励したり単元終末段階における習熟度別学習の取組を支援したりする。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。